



厚生財団

KOSEIZAI DAN

一般財団法人 新潟県教職員厚生財団 TEL 025 (228) 3581 URL <http://www.koseizaidan.or.jp>
〒951-8516 新潟市中央区東中通1-86-73 FAX 025 (224) 8830 E-mail info@koseizaidan.or.jp

TOPICS (主な内容)

令和2年度 役職員の紹介 P.2

令和元年度 会計決算・事業報告 P.3

乳がん超音波(エコー)検査の補助について
普通事業助成 申請受付中 P.4

雪里の小さな自然科学館
「森の学校」キョロコの挑戦 P.6



新潟県の 文化財シリーズ

■ 新発田城 国指定重要文化財

新発田城と新発田市街地花火です。新発田城址公園で8月に開催された新発田市街地花火と新発田城の饗宴をテーマに撮影しました。

お堀に、花火と城が映り込んでいるのも、面白味のあるところだと考えています。

残念なことに新型コロナウイルス感染症対応で、令和2年度の「城下町新発田まつり」は中止になってしまいました。せめて写真だけでも、「城下町新発田まつり」の雰囲気を感じていただければと思います。

写真提供・文

新発田市立紫雲寺小学校長 茂呂 良彦 様

新発田支部長

新発田市立御免町小学校長 藤井 聡 様

「安心と充実した生活」を願って

理事長 桑 原 直 哉



を支える企業であり続けます。」

こう語るのは、総合建設業「上杉組」の上杉操社長です。さらに、「これまでの土木・建設部門及び建築・解体部門での事業活動を通じて基盤を造り、地域住民の皆様が安心・安全・そして便利に日々の生活を送れるよう考えて行動してまいりました。当社は創業以来からの根幹であるこの建設業を軸に、新しく開業したアグリ部門も含めて、これからも地域に根ざした活動を行ってまいります。」とも語っています。

この上杉社長の語る価値観や行動指針は、厚生財団の

目的に重なります。厚生財団が目的としていることは、県内教職員に対する福利厚生事業を行うことにより、団員相互の生活安定と福祉の増進を図るとともに、新潟県民のための教育・文化活動への助成を行い、教育の振興発展に寄与することです。ともに人々の「安心と充実した生活」を求めているのです。

厚生財団は、107年間、新潟県の教職員とともに歩んできた実績と信頼があります。これからも職員全員が誇りをもち、理事会等の会合や様々な機会を通して、団員の皆様のご意見・ご要望にしっかり耳を傾け、時代とともに変わっていくニーズに応える取組を進めていきます。

そして、団員の皆様の「安心と充実した生活」や新潟県民の教育のために、日々経営努力を進めていきたいと考えています。

令和2年度 役職員の紹介

◆顧問・理事・監事◆

職名	氏名	所属所名	職名	氏名	所属所名
顧問	高橋 信	新潟県教職員厚生財団	理事	高橋 正則	長岡市立阪之上小学校
顧問	涌井 昭夫	新潟県教職員厚生財団	理事	若月 典明	長岡市立表町小学校
顧問	長谷川 豊	新潟県学校生活協同組合	理事	佐藤 幹夫	上越市立城西中学校
理事長	桑原 直哉	新潟県教職員厚生財団	理事	中島 秀晴	上越市立大町小学校
副理事長	岡島 祐次	新潟県教職員組合	理事	宮野 正則	妙高市立新井小学校
専務理事	坂井 育男	新潟県教職員厚生財団	理事	新井 秀和	新潟県学校生活協同組合
常務理事	猪股 博英	新潟県教職員厚生財団	理事	吉澤 環	新潟県学校生活協同組合
理事	市川 亮	新潟県立新潟高等学校	理事	徳留 信登	新潟県教職員組合
理事	中戸 義文	新潟県立新発田高等学校	監事	淡路 弘幸	長岡市立東北中学校
理事	今井 聡己	新潟県立江南高等特別支援学校	監事	若林 靖人	小千谷市立小千谷中学校
理事	大橋 伸夫	新潟市立白新中学校	監事	中島 崇	新潟県教職員組合
理事	吉田 隆	新潟市立新潟小学校	監事	永松 司	大樹生命保険(株)新潟支社
理事	鈴木 正美	村上市立村上小学校			

◆評議員・支部長◆

支部	評議員	所属所名	支部	支部長	所属所名
新潟北区	小林 久哉	葛塚東小学校	新潟北区	長谷部 芳樹	松浜小学校
新潟東区	渡辺 真也	牡丹山小学校	新潟東区	佐々木 克己	東山の下小学校
新潟中央区	大井 隆	上所小学校	新潟中央区	市村 吉之	日和山小学校
新潟江南区	永井 高志	早通小学校	新潟江南区	津野 治彦	亀田小学校
新潟秋葉区	間嶋 哲	新津第三小学校	新潟秋葉区	齊藤 裕子	結小学校
新潟南区	阿部 祐子	根岸小学校	新潟南区	小林 武	大通小学校
新潟西区	武井 真一郎	立仏小学校	新潟西区	本多 郁代	青山小学校
新潟西蒲区	松野 孝雄	曾根小学校	新潟西蒲区	上澤田 誠	巻北小学校
新潟市中学校	小川 裕一	鳥屋野中学校	新潟市中学校	伊藤 雅人	上山中学校
長岡・三島	上村 満	中島小学校	長岡・三島	今泉 祐治	旭岡中学校
上越	中野 英康	大潟町小学校	上越	竹田 一昭	大潟町中学校
三条	小畑 一二美	裏館小学校	三条	土田 栄林	栄中学校
柏崎・刈羽	佐藤 克己	刈羽小学校	柏崎・刈羽	原田 一	瑞穂中学校
新発田	佐藤 政志	第一中学校	新発田	藤井 聡	御免町小学校
小千谷	川池 雅樹	東小千谷小学校	小千谷	高橋 和人	小千谷小学校
加茂・南蒲	北山 智博	田上中学校	加茂・南蒲	栢森 耕太郎	加茂小学校
十日町・中魚	宮澤 均	南中学校	十日町・中魚	山岸 一朗	十日町小学校
見附	小堺 和也	西中学校	見附	松井 謙太	見附小学校
村上・岩船	小田 聡	村上南小学校	村上・岩船	今井 学	岩船中学校
燕・西蒲	水戸 巖	分水中学校	燕・西蒲	二平 芳信	吉田小学校
糸魚川	吉田 和則	能生中学校	糸魚川	松永 勝栄	根知小学校
妙高	岡田 和則	妙高高原北小学校	妙高	村井 友明	新井中学校
五泉	高津 清一	愛宕小学校	五泉	甲斐 浩之	村松小学校
阿賀野・北蒲	三浦 学	聖籠中学校	阿賀野・北蒲	佐藤 元彦	水原小学校
佐渡	香遠 正浩	金井中学校	佐渡	新発田 靖	金井小学校
胎内	丹後 裕	胎内小学校	胎内	中村 祐一	中条小学校
魚沼	佐藤 茂幸	小出小学校	魚沼	早川 政宏	堀之内小学校
南魚沼	滝沢 正浩	城内小学校	南魚沼	渡辺 和人	六日町中学校
東蒲原郡	稲生 一徳	阿賀津川中学校	東蒲原郡	茂野 正明	上川小学校
高等学校	柳沢 幸也	高田北城高等学校	高等学校	佐藤 一彦	新潟中央高等学校
高等学校	内田 卓利	三条高等学校	—	—	—
高等学校	仲野 孝	新潟商業高等学校	—	—	—
特別支援学校	長谷川 紘	高田特別支援学校	特別支援学校	高橋 淳	東新潟特別支援学校
大学	—	—	大学	萱場 龍一	新潟大学工学部
新事研	外山 敏美	名木野小学校	—	—	—

◆厚生財団職員◆

事務長 田中英 幸
書記 渡邊 健

主査 茂野 恵子
書記 今井 典昭

主任 山口 隆行
書記 長谷川あゆ美

書記 渡辺 美季

令和元年度 会計決算・事業報告

正味財産増減計算書

平成31年4月1日～令和2年3月31日

(単位：円)

経常増減の部	
経常収益	480,956,193
基本財産運用益	405,000
特定資産運用益	471
資金運用収益	383,603,981
事業収益	96,933,709
雑収益	13,032
経常費用	432,999,034
事業費	242,300,784
管理費	190,698,250
当期経常増減額	47,957,159
経常外増減の部	
経常外収益	0
経常外費用	0
当期経常外増減額	0
正味財産の部	
税引前当期一般正味財産増減額	47,957,159
法人税、住民税及び事業税	70,000
当期一般正味財産増減額	47,887,159
一般正味財産期首残高	2,918,360,605
正味財産期末残高	2,966,247,764

正味財産は、貸借対照表の資産から負債を引いた額で、企業会計の純資産に該当するものです。

また、「正味財産増減計算書」は当該年度の正味財産の増減状況を適正に表示したもので、企業会計の損益計算書に該当するものです。

貸借対照表

令和2年3月31日現在

(単位：円)

資産の部	
流動資産	3,150,900,890
現金・郵便振替・普通預金	1,638,426,093
定期預金・有価証券	1,440,000,000
前払金・未収金等	72,474,797
固定資産	35,566,375,397
基本財産(有価証券)	50,000,000
特定資産(退職給付引当)	58,438,000
償却資産(建物・構築物・什器備品・リース資産)	245,817,689
土地	163,258,520
貸付金	4,611,278,544
有価証券	30,437,582,644
資産合計	38,717,276,287
負債の部	
流動負債	84,264,942
未払金・リース債務等	4,991,123
保険料預り金	76,058,993
期末勤勉手当引当金	3,214,826
固定負債	35,666,763,581
リース債務	1,408,752
積立金	35,606,916,829
退職給付引当金・役員退職慰労引当金	58,438,000
負債合計	35,751,028,523
正味財産の部	
一般正味財産	2,966,247,764
正味財産合計	2,966,247,764
負債・正味財産合計	38,717,276,287

◆ 団員数・厚生資金積立金 令和2年3月31日現在

	団員数	厚生資金積立金
現職団員	18,619人	255億 9,468万円
継続団員	4,412人	100億 1,224万円
合計	23,031人	356億 692万円

◆ 厚生費贈与事業

①普通厚生費	総 額	3,136万円
	1人平均贈与額	1,361円
	年度末に全団員に贈与(個人の積立金に繰入れ)	

②特別厚生費

種 別	件 数	贈 与 金 額
弔 慰 金	70件	869万円
災 害 見 舞 金	22件	101万円
病 気 見 舞 金	538件	1,069万円
香 げ 料	1,356件	2,180.5万円
結 婚 祝 金	375件	1,802.5万円
就 学 祝 金	615件	1,224万円
出 生 祝 金	630件	1,246万円
永年団員祝金	1,602件	4,603万円
合 計	5,208件	1億 3,095万円

◆ 新規貸付状況

種 別	件 数	貸 付 金 額
生 活 資 金	638件	4億 3,174万円
自 動 車 資 金	206件	3億 4,085万円
結 婚 資 金	22件	3,850万円
入 学 資 金	48件	8,580万円
学 資 金	74件	1億 2,100万円
災 害 資 金	2件	600万円
住宅・宅地資金	17件	1億 400万円
合 計	1,007件	11億 2,789万円

◆ 生命保険団体取扱い事業(大樹生命)

種 類	内 訳
普 通 保 険	保有件数 4,372件 保険金額 210億 3,241万円
教職員年金制度	加入人数 1,930人 加入口数 51,706口

◆ 厚生・補助・あっせん事業

種 類	内 訳
教職員手帳	現職団員(希望者)と継続団員
総合健診等	総合健診(人間ドック) 1,320人
受診料補助	オプション検診 1,747人
退職準備金借入	2件

◆ 公益目的支出計画実施報告書 平成26年4月1日～令和2年3月31日

1. 公益目的財産額	14億 435万円
2. 当該事業年度の公益目的支出累計額 (①+②-③)	1億 3,766万円
①前事業年度末日の公益目的支出累計額	1億 1,357万円
②当該事業年度の公益目的支出の額(平成31年4月1日～令和2年3月31日)	2,409万円
③当該事業年度の実施事業収入の額	0万円
3. 当該事業年度末日の公益目的財産残額	12億 6,669万円

ご利用ください <総合健診（人間ドック）等の受診料補助> 乳がん超音波（エコー）検査 オプション検査補助

今年度より、オプション検査補助項目へ「乳がん超音波（エコー）検査」を追加いたしました。
今後はマンモグラフィ検査だけでなく、超音波（エコー）検査のみ受診した場合でも補助を受けることができます。

近年、乳がん検診に関するオプション検査の利用が増加しており、乳がんに対する関心の高さが伺えます。厚生財団の受診料補助を利用し、少しでも団員の健康増進にお役立ていただきたいと思います。

令和2年4月1日受診分から申請できます

補助金額 乳がん超音波（エコー）検査 1,500円

補助対象 団員本人が自己負担で受けたオプション検査（単独受診も可）

マンモグラフィ検査と併用すれば、
補助金額は 合計 **3,000円**💡

乳がん超音波（エコー）検査	1,500円
マンモグラフィ検査	1,500円

次のいずれかに該当する場合は、オプション検査の補助を利用できませんので事前にご確認ください。

- ① 国民健康保険組合の助成制度、市町村が行う健康診査制度を利用した検診
- ② 診療行為等で健康保険証を利用した検査（健康保険が適用されているもの）
- ③ 検査内容が人間ドックコースに含まれている
- ④ 受診時の自己負担が補助額に達していない

申請方法は「**令和2年度 総合健診（人間ドック）等の受診料補助要項**」をご覧ください。

補助要項は、厚生財団ホームページ内に掲載。継続団員は4月に自宅へ送付。

新潟県民のための教育・文化活動助成事業

新潟県内の教育振興に寄与する団体や事業を支援しています

地域の伝統文化・芸術の継承活動や教職員同士のサークル活動、研究指定を受けた学校・団体などを対象とした、令和2年度の普通事業助成の申請を受け付けています。

希望する団体は期日までに申請手続きをお願いします。なお、昨年度に引き続いて助成を希望する団体も改めて申請が必要です。

助成対象	1. 伝統文化・芸術、サークル活動等（※） 2. 研究指定校・研究物発刊団体等 （※） 1. の申請には、支部長（本紙2ページ掲載）の推薦が必要です
申請期限	10月30日（金） 当日消印有効
申請方法	厚生財団ホームページの書式集から「普通事業助成申請書」を取得し、必要事項を記入の上、添付書類を揃えて厚生財団へ提出してください。

「永年団員祝金」贈与 振込口座報告のお願い

令和2年度の永年団員祝金該当者へ1万円を贈与いたします。下記の現職団員へご案内を差し上げましたので、期日までに受取金融機関についてご報告をお願いします。

該当者	在団年数	贈与の対象となる入団年度
	10年	平成21年度(2009年度)入団
	20年	平成11年度(1999年度)入団

【提出期限】 令和2年7月27日(月)

【贈与金額】 10,000円

【送金日】 令和2年9月30日(水)

※平成8年度以前に入団している団員は退職時に一括贈与しますので、在団年数25・30・35・40年の方へ今回のご案内は送付していません。

事務局から

「継続団員連絡会」及び、 「退職を祝う会」の開催中止について

令和2年9月の「継続団員連絡会」は、開催を中止とさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら検討を重ねましたが、感染拡大防止・予防の観点から、皆様の健康と安全の確保を最優先に判断させていただきました。

同様に、令和2年6月の「退職を祝う会」についても中止とさせていただきました。誠に残念ではございますが、何卒ご理解とご協力をお願い申し上げます。

なお、延期や代替事業の実施はありません。来年度は無事に開催できますように願っています。

■各種払込金の照会をするには団員マイページ！

新潟県教職員厚生財団

検索

団員マイページにログイン後“払込残高明細書”をクリック
パスワードをお忘れの場合は厚生財団までご連絡ください。

大樹生命からのお知らせ

新潟県教職員年金制度

2020年度(新規加入・増口)

(正式名：提出型企業年金保険)

● 予定利率

年 1.25%(注3)

● お取り扱い期間

9/1(火)～10/15(木)

● 豊かな老後は「教職員年金制度」から！

● 自由設計が可能で、厚生財団団員(注1)のための制度です。

● 4つの年金タイプで老後をサポートできます。

● 個人年金保険料控除適用による節税効果(注2)が期待できます。

お問い合わせはどうぞこちらへ **025-243-6877** 大樹生命新潟支社

(注1) 加入日(責任開始日)現在、新潟県教職員厚生財団の現職団員で満18歳以上満55歳未満(昭和41年1月2日～平成15年1月1日生れ)の方。

なお、掛金払込完了年齢(満60歳)まで払込期間が10年未満(昭和45年11月30日以前生まれ)の方は、個人年金保険料控除の適用は受けられません。

(注2) 2020年5月現在の税制に基づいた記載です。今後税制の改正が行われた場合には記載内容と相違する場合があります。

なお、2012年1月より生命保険料控除制度が改正されましたが、当制度については2011年12月31日以前に締結された契約であるため旧制度の生命保険料控除額の適用が継続されます。

(注3) 予定利率は将来にわたって保証されるものではありません。

また予定利率は2020年3月2日現在のものであり今後変更される場合がございます。

※ご加入の際には、パンフレットにて詳細を必ずご確認ください。

大樹-KB-2020-246

一般財団法人 新潟県教職員厚生財団

引受保険会社
大樹生命保険株式会社

雪里の小さな自然科学館「森の学校」キョロロの挑戦

第5回 教育普及活動 里山学会

～自然を活かした『地域を創るサイエンス』を目指して～



村山 暁（十日町市立里山科学館「森の学校」キョロロ館長）

里山学会とは

当館の教育普及活動の一つに里山学会があります。開館当初から里山の自然や文化の研究に携わる専門家などを講師として招いて行う市民講座としての里山学会とこどもが主役の学習成果を発表するこども里山学会を開催してきました。その後、つまり市民里山学会を加えましたが、現在里山学会とつまり市民里山学会を一つにして開催しています。

この里山学会は、豊かな自然環境に恵まれた十日町市と津南町からなる妻有（つまり）地域の里山ならではの自然や文化を、児童生徒や市民、研究員などが中心となって調査研究、教育・普及、実践活動を行いその魅力を知り、伝える市民や児童生徒の発表や交流の場となっています。

つまり市民里山学会

つまり市民里山学会は市民の皆さんが調査・研究の成果を発信、情報交換、交流する「市民が主役」の発表会です。地域住民に地域の魅力を再発見してもらい、地域の自然や文化の保全に対する意識を向上させることなどを目的として開催しています。

昨年度末の里山学会は新型コロナウイルス感染防止のために中止となってしまいましたが、第11回目を数えた平成30年度には、次のような発表が行われました。

- 1 「雪国の里山の魅力を発信する「小荒戸」冊子作りを通して」（風土研究室）
- 2 「もっともっと、ジョーモンを身近に！ー今と縄文時代をつなぐー」（伊乎乃の里・縄文サポートクラブ）
- 3 「『まつのやま基地』はじめます～松之山暮らしを楽しむためのコミュニティスペースづくり～」（まつのやま基地グループ）



- 4 「変わりゆく身近な自然～バイカモを例に～」（津南町自然に親しむ会）

- 5 「十日町市におけるモツゴ属魚類3集団の年齢構成」（十日町高校生物部）

**こども里山学会**

こども里山学会は十日町市内の小中学生が、総合学習などの時間に行った地域の自然や文化について調べた学習の成果を発表し合い、学校間の交流を深めるための「こどもが主役」の発表会です。キョロロが開館した2003年以来毎年開催され、活発な質疑応答や交流が行われています。第17回目となった昨年度の発表テーマは次のとおりです。

- 1 「ふるさと吉田 ～ホテルが棲み続けるために～」
吉田小学校4年生 12名
- 2 「松代の衣食住について」
松代小学校4年生 27名
- 3 「緑の少年団活動のふりかえりをしよう！」
まつのやま学園3年生5名、4年生6名



次代を担うこどもたちが生まれ育っているふるさとを五感を使って感じ、考え、実践する活動はこどもたちの生きる力のもととなっています。